

函館市元町末広町伝統的建造物群保存地区

安政元年(1855)、箱館（現在の函館）は日米初の通商条約である神奈川条約により開港され、安政6年(1859)には長崎や横浜と共に国際貿易港となりました。

明治期の大火後に、現在の伝建地区の原型となる町並みがつくられました。和風や洋風、そして和洋折衷の町家や宗教建築、公共建築が建ち並んでいます。昭和50年以降（1975～1989）に歴史的景観の保護運動が活発化し、昭和63年（1988）にこの地区は市の伝統的建造物保存地区に指定され、平成元年(1989)に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。